

「ソロモン・グランディの永遠の一週間」

配布 : <http://card.zero-the.fool.jp/>

Solomon Grundy,

Born on a Monday,

Christened on Tuesday,

Married on Wednesday,

Took ill on Thursday,

Worse on Friday,

Died on Saturday,

Went back to Monday,

There's no exit

for Solomon Grundy.

ソロモン・グランディ

月曜 めでたくごたんじょう

火曜 きょうかいでせんれい

水曜 およめさんもらい

木曜 びょうきになった

金曜 すっかりわるくなり

土曜 とうとう死んじゃって

日曜 げつようびにかえる

ソロモン・グランディは

逃げられない

プレイヤー人数 2人(2人を推奨、3~4人も可能) / **リミット** 6サイクル(12÷PC人数)**背景**

六分儀市の病院で、同じ一週間で繰り返されるという魔法災厄が発生。大法典に潜んでいた 理想郷 の書籍卿、琴浦誠と“象牙の塔”が、禁書 ソロモン・グランディの永遠の一週間 を使って不死の実験を行っているためである。だがその琴浦自身も、実験の影響で呼び起こされた怨霊によって病棟に閉じ込められていることに気づいてはいなかった。

禁書「ソロモン・グランディの永遠の一週間」

特定の閉鎖空間内で、同じ一週間で繰り返す魔法災厄を引き起こす禁書。さらに、繰り返しが続くと、空間内と外の世界との齟齬を埋めるため、内外に辻褃あわせのための事実改変を行い始める。

あらすじ

霧坂総合病院第3小児科の入院病棟で、同じ一週間で繰り返されるという魔法災厄が起きている。PCたちは、担当の医局長、入院している子どもたちを調べ、原因となっている 断章 を回収し、病院内に潜む謎の存在と対決しなければならない。書籍卿 との対決を通し、PCたちに 大法典 の使命への覚悟を問う。

導入フェイズ

「リフレイン」は近所の子どもやその母親と交流がありそうなPCの導入、「疑惑」はもうひとりのPCの導入。判断がつかない場合、もっとも位階の高いPCに「疑惑」、もうひとりのPCに「リフレイン」を。

PCが3人以上の場合には、水城アユミとのシーン(ナースの付き添いつきで車椅子で外出、市立図書館へ来てPCと交流)、双宮ヒトシとのシーン(PCの近所に住んでおり、道でぶつかって会話に。弟が入院したから見舞いに行くところだ、こんど(PC)さんも行ってやってくれ、と言われる)を3人目以降のPCに振り、それぞれのNPCとの【運命】を1点得させること。属性はランダム。

導入1「リフレイン」

PCと越智マモリの母親が話している場面。越智(母)はPCの近所に住む主婦。よく娘の越智マモリを連れて歩いており、母娘共にPCの知人。

ある月曜日(一週間前)、やや疲れた表情の越智(母)がPCに「娘のマモリが入院しちゃって……」と話す。軽い肺炎で、一週間と少しすれば退院できるそうだが、泣き虫の娘を病院に置いてくるのがかわいそうで辛い、と言う。

次の週の月曜日(現在)越智さんはPCと同じことを話す。PCがいぶかしむとキョトンとして、娘が入院したのは確かに今日だし、先週その話をした覚えはないという。

GMはマモリのハンドアウトを公開する。シーンプレイヤーのPCはマモリに対して1点の【運命】を得る。属性は「興味」。

導入2「疑惑」

PCが禁書の回収を命じられる場面。大法典の六分儀市支部に呼び出され、影原文子から大法典が感知した魔法災厄について聞かされる。

「今回の禁書は強い力を持っている様です、注意してください。10日ほど前、別の魔法使いが回収任務に失敗しています。(禁書の名前と効果(GMは1ページ目を参照)を解説、内表紙に書いてあったものとして6ページ目(シーン表のページ)の改変マザーグースと訳を見せる)」

「そして昨日の日曜日、この禁書の大きな魔力が動いたのが感知されました。恐らく一週間の回帰が起こり、今、また同じ一週間が始まっているものと考えられます」

「この一週間が繰り返されるたび、周囲の世界との齟齬を調整するために働く魔力が、徐々に影響を大きくしていくことでしょう。次の回帰を起こさせるわけには行きません。次に『げつようびにかえる』前……つまり日曜になってしまう直前には、封印結界を発動します。ですから、土曜日の終わりまでに(他のPC)と分科会を組み、禁書の回収をお願いします(つまり、ゲーム的にはクライマックスは「6サイクル目、PCが全員行動済みになった直後のマスターシーン」で発生)

「魔力が感知されたのは、霧坂総合病院のどこか。この病院は禁書の回収に失敗した魔法使い、琴浦誠の勤務先です。魔力の消耗で大法典の仕事は休養中ですが、表の仕事には問題なく出勤しています。まずは彼に接触を取ってください」GMは琴浦のハンドアウトを公開する。シーンプレイヤーのPCは琴浦に対して1点の【運命】を得る。属性はランダム。

シナリオの展開

このシナリオでは、メインフェイズ以降、1サイクルを1日として扱う。導入は月曜日、そのまま仕事に向かってもらい、メインフェイズの第1サイクルも同じ月曜日の出来事とする。

プレイヤーが3人の場合、導入「リフレイン」のみ月曜日、それ以外の導入・メインフェイズ第1サイクルは水曜日となる。4人の場合は木曜日。シーン経過によって起こるマスターシーンは「曜日」に合わせて発生させること。

クライマックスフェイズ(禁書の【編纂】あるいは(断章が揃っていない場合には)封印結界の発動)は「第6サイクル、PCが全員行動済みになった後」に発生する。

また、メインフェイズに入って以降、PCたちは病棟の中に閉じ込められてしまい、外に出ることができない。病棟にいないNPCがシナリオに関係してきた場合(シーン表や事件表の結果、アンカーに魔法災厄が起きた等)なぜか入院患者として病棟内に出現する、という演出を行う。それが不自然なNPCである場合には、PCは予知や幻視でNPCの状況を察知し、接触が必要な場合は相手の夢の中に登場するという演出にするとよい。

マスターシーン

1 サイクル目第1シーン：

PCたちが霧城総合病院の第三小児入院病棟にやってきたシーン。PCは全員登場。エレベーターで4階に上がると、看護婦に押されて車椅子で通りかかった水城アユミに会う。アユミはPCに「お見舞いの方ですか？」と声を掛けてくる。適宜交流したところで、PCたちの迎えの看護婦がやってきて、アユミは自分の病室に帰っていく。アユミのハンドアウトを公開する。

看護婦がPCたちを迎える。「お疲れさまです。琴浦先生のお客さまですね、お話ししています。先生はもうすぐ回診を終えられてお部屋に戻られますので、いらしてくださいませ」

背後でエレベーターの扉が開く音がする。PCの誰かが目をやったなら、開いた扉の向こうが壁になっているのが見て取れる。

禁書 の力で回帰を続けている閉鎖空間とは、どうやらここで間違いないようだ。

断章 永遠 を回収した次のシーン：

琴浦が 永遠 を回収したPCの前に現れ、封印をやめるよう誘惑するシーン。「アユミちゃんは長くは生きられない身だ。その力があれば彼女は死なずにすむ。それでも君たちは残酷な行いを断行すると言うのかい」

(琴浦の【秘密】がまだ明かされていない場合には、ある程度ぼかした話(上記程度)を振るだけ振って去る。明かされている場合には、禁書の力による患者の不死の実現の可能性を説いてPCを理想郷に勧誘する。拒絶されれば引き下がるが、「分かってくれるまでまた話をしにくるよ。君たちはこの病棟から出られないんだ、時間はたっぷりある」と捨て台詞を残す)

(禁書の力を使うことを責められた場合)「そう、大法典の正義はそれだ。全ての魔法を世界から隔離し、図書館の中に封印する。だが、目の前の命を見捨ててまで、それに殉じるだけの理由が君にはあるのかい?」

第4サイクル第1シーン、第6サイクル第1シーン：

第4サイクルに「木曜 びょうきになった」、第6サイクルに「土曜 とうとう死んじやって」発生。それぞれにおいて、まだ断章に憑依されている子のうちランダムに1人に、運命変転表の3を適用する。

第5サイクル第1シーン：

「金曜 すっかりわるくなり」発生。まだ断章に憑依されている子ども全員の憑依深度が1上昇する。

その他のイベント

琴浦に会いに行く以外の最初のドラマシーン：

病院の廊下を走っている少年がPCにぶつかる。入院中の弟の見舞いにきたのだが、病室を出てほつき歩いているので探しているところだという。双宮ヒトシのハンドアウトを公開すること。

PCの誰かが病院から出ようとした、一度帰ろうとした、別の階へ行こうとした：

エレベーターの扉も、階段に繋がる金属の扉も、開いた向こう側には壁しかない。この病棟は禁書の影響で閉鎖空間になってしまっているようだ。

琴浦「なに、泊り込んでゆっくり調査してゆかれればいゝ。部屋ならお貸ししますよ」(PCたちをもう外へ出す気は無い)

断章 を全て回収した：

PCたちは背中にぞくりとするような恨みがましい視線を感じる。少年の声が聞こえる「.....ヒ ト ゴ ロ シ」

以降PCたちは、自分たちを見張るようなどこかからの視線を常に感じるようになる。

禁書を封印するより前に、琴浦に魔法戦を挑んだ：

データは「囁きの誘惑者」。敗北すると琴浦は観念し、病棟の閉鎖を解くと言う。PCたちをエレベーターまで案内し「下」のボタンを押す。チーン、と間の抜けた音がして扉が開くが、その向こうには壁しかない。

琴浦は震えだす。自分はまだ魔法を解いているという。.....と、後ろから「.....行ッちゃダメダヨ、先生..... 僕ヲ治スマデ、逃ガサナイ」と少年の音がする。後方に、ヒトシによく似た少年の亡霊が立っており、間もなくふっと姿を消す。

どうやら禁書と実験の影響で、琴浦にも予測のつかなかった魔法災厄が起きているらしい。禁書を封印しなければここから出ることはかなわないようだ。

外部とテレバシーで連絡を取ることにはできる。影原文子は、魔法陣を転送するからその病棟内で【編纂】は実行可能だと言ってくれる。(準備が必要なので、土曜日の夜(6サイクル目、PCが全員行動済みになった直後のマスターシーン)にだが)

琴浦にトドメを刺す：

トドメを刺そうとすると、背後から「.....ダメ.....」という声が聞こえる。そちらを見ても誰もいない。

刺した場合、少年の金切り声が響き渡る。琴浦の死体がごちなく頭を持ち上げ、カッと口を開いて喋りだす。

「ユルサナイ、ユルサナイ、ユルサナイ!」「先生ハ、僕ヲ治シテクレルマデ、ココカラ逃ゲチャダメダツタノニ!」「オマエたち、出サナイ、先生ノ代ワリニナレ! 先生ノ代ワリニ、僕ヲ治スマデ、ココカラ出サナイ!」がぐんと力を失い、琴浦の死体は死体に戻る。亡霊が【返呪】を修得する(禁書との集団戦時、敵が【返呪】と《叫び》を修得している)

クライマックス

琴浦を倒した後で 禁書 の封印を行う場合：

【編纂】が開始され、床が垂直に立ち上がる途中でどこからか少年の音がする。

「渡サナイ……。ソレ、無イト、先生ガ逃ゲル。大人ノ誰カ、僕ヲ治スマデ、ココカラ出サナイダ！」

呪圏の中で、断章がまとまった 禁書 を核として双宮ニキの亡霊が実体化する。通常通り、呪圏の中での 禁書 との集団戦になるが、敵は 断章 が所持していたもの以外に(ニキの亡霊の能力として)魔法【狂乱】【感染】および刻印《狂気》《悪意》を修得しているものとして扱う。その他の処理は 禁書 に準じる。

琴浦を倒す前に 禁書 の封印を行う場合：

【編纂】の直前、「それを奪われるわけにはいかない」と琴浦が現れる。禁書 と琴浦、双方を相手取るクライマックス(ルールブック P.243 上段「もう1つのパターンは～」参照)に。【編纂】が始まると上のイベントも同時に発生する。

結末

禁書 の封印に成功すれば、双宮ニキの亡霊は散逸し、病棟の閉鎖も解ける。琴浦誠の処置についてはPCに任せる。特に指定が無ければ 大法典 が捕らえる。各PCと、プレイヤーが希望するNPCとの交流を演出してシナリオを終了する。以下は各NPCの状況や台詞の例。参考までに。

越智マモリ：完治まで一週間以上、というのは琴浦がマモリを実験に使うための嘘である。断章の魔力から解放され、体調はみるみる本来の状態……既にほぼ完治……に戻る。解放された病棟には何事もなかったように別の医師がやってきてマモリを診療し、明日には退院できると太鼓判を押す。母親がちょうど訪れて、PCが見舞いに来てくれたのかと言って喜ぶ。

双宮ヒトシ：自分がなぜ病院に来たのか思い出せず、気恥ずかしそうにPCに病院の出口を訊ねに来る。別れの間際、「……ねえ、変なこと聞くんだけども、……にいちゃん、おれの弟にあったことある？」

水城アユミ：彼女の病気は元々重く長く、余命半年と言われているもの。断章の影響がなくなっても、それが治るわけではない(むしろ……)穏やかにPCを見送る。

「琴浦せんせいは、きょうは、こないですか」「うん、がんばります。だいじょうぶ」

「(PC)さん、あの……、ついでがあったら、また、あそびにきてくれたらうれしい、です」

琴浦 誠：去る直前、PCに言葉を掛ける。

「最後に聞かせてくれ。君は惹かれることはないのか、患者にも不死をもたらす術法に。

君は死なない魔法使いだ。魔法使いが関わらずにはおれない患者たちは、君の周りで次々と死んでいく。

君はそれにいつまで耐えられるというんだ」

ハンドアウト

は「人物」、は「秘密」/ 最後のページに切り抜き・貼り付け用の成型版があります。(内容は同じです)

【水城アユミ】(みなき あゆみ)

長期入院患者、穏やかで儂げな少女。11歳。歩くことができず寝たきりで、苦しい治療に健気に耐えている。将来の夢はバレリーナ。

琴浦に淡い恋心を抱き、心から信頼している。生まれつきの病気で、余命半年。治療と称して琴浦の手で断章 永遠 を憑依させられている。

【双宮ヒトシ】(ふたみや ひとし)

9歳の少年。見舞い客。生意気で口が悪いがお節介で親切。入院している双子の弟ニキを探している。

断章 ソロモン・グランディ に憑依されている。琴浦に誘われてここに来た。現在は憑依が進み、誘われたことを忘れて、自分からここへ来たのだと思い込んでいる。

【越智マモリ】(おち まもり)

7歳の少女。軽い肺炎で入院中。怖がりで泣き虫。いつもむずかかって看護婦たちを困らせている。将来の夢はキャビンアテンダントだが、高い所が怖い。

断章 一週間に憑依されている。そのことで魔法的な感覚が鋭くなっているらしく、「ユーレイがいる」「せんせいの近くを歩いてた」等と言って怯えている。

【双宮ニキ】(ふたみや にき)

この病院に入院しているらしい少年。双宮ヒトシの双子の弟。病室を出てほっつき歩く癖がある。この段階では、このキャラクターはシーンに登場することができない。

既にこの病院で亡くなっている。その怨念が 禁書 の力と琴浦の実験の影響で形を取り始めている。未だ希薄な存在であり、通常の方法ではシーンに登場できない。禁書の【編纂】の儀式時、つまり断章 がまとまる際に姿を現すだろう。

この【秘密】が明かされていない場合、禁書 は自由にプロットを行うことができる。

【琴浦 誠】(ことうら まこと)

霧坂総合病院第三小児科医局長。大法典 所属の魔法使い。先日、禁書 ソロモン・グランディの永遠の一週間の回収任務に失敗してしまった。

理想郷 の書籍卿、魔法名“象牙の塔(エルフェンバイン)”。大法典 に潜入し、回収に失敗したふりをして禁書 ソロモン・グランディの永遠の一週間 を持ち去った。禁書の断章を憑依させることで患者を不死にする実験を行っている。

魔法戦で敗れていない限り、【編纂】の時には現れて妨害をしてくるだろう。

断章 ソロモン・グランディ 初期憑依深度2 / 攻:3 防:3 魔力:6 / 魔法:【逆転】 / 特技:《物語》

断章 永遠 初期憑依深度1 / 攻:4 防:2 魔力:6 / 魔法:【支配】 / 特技:《裏切り》

断章 一週間 初期憑依深度0 / 攻:2 防:4 魔力:6 / 魔法:【変異】 / 特技:《混沌》

~~~~~  
その他: 願い事をするようになった場合の例

【マモリ】「はやくおうちにかえりたい」

【ヒトシ】「ニキに会いたい」

【アユミ】「パパとママに、わたしがバレリーナになれるって信じさせてあげて」

【ニキ】「治してほしい」「兄ちゃんに会いたい」

【琴浦】「患者に不死を与える術を」  
~~~~~

次のページは、セッション中にプレイヤーの前に出すためのシートです。

はじめは折り曲げた状態にして、導入2「疑惑」で上半分(改変マザーグース)を公開、

メインフェイスに入ったら紙を開いて、下半分(病棟内シーン表)も見える状態にすると便利です。

Solomon Grundy,

Born on a Monday,

Christened on Tuesday,

Married on Wednesday,

Took ill on Thursday,

Worse on Friday,

Died on Saturday,

Went back to Monday,

There's no exit

for Solomon Grundy.

ソロモン・グランディ

月曜 めでたくごたんじょう

火曜 きょうかいでせんれい

水曜 およめさんもらい

木曜 びょうきになった

金曜 すっかりわるくなり

土曜 とうとう死んじやって

日曜 げつようびにかえる

ソロモン・グランディは

逃げられない

病棟内シーン表

2	魔法で作り出した次元の狭間。ここは時間や空間から切り離された、どこでもあり、どこでもない場所だ。
3	ガラスの自動ドアの前。ガラスの向こうにはエレベーターホール。入院患者にとっての国境線。
4	患者の家族用の小さな控え室。水とコーヒーが飲めるサーバーと紙コップが設置されている。今は一般の利用者はいない。
5	廊下。左右には病室が延々と並び、パジャマを着た入院患者や、銀色のキャスターを押す看護婦が行き来している。
6	病室。入院患者のいる部屋でもいない部屋でもよい。窓が少し開けられ、カーテンが揺れている。
7	周囲で 断章 が引き起こした魔法災害が発生する。ランダムに特技一つを選び、判定を行うこと。成功すると、好きな魔素が一個発生する。失敗すると、「運命変転表」を使用する。
8	デイルーム。暖色の絨毯の上に木のテーブルと椅子が並び、ガラス越しの陽光がぼかぼかと暖かい。
9	自動販売機の前。紙パックの乳酸飲料が妙に多い。
10	見舞い客用のロビー。合成皮革をはった長いすが並び、
11	長い廊下の果て、病棟の隅っこ。ここでなら携帯電話を使ってよいという表示がある。
12	未来の予感。このままだと起こるかもしれない出来事の幻が現れる。

「人物」用

おち
越智 マモリ

7歳の少女。軽い肺炎で入院中。怖がりで泣き虫。いつもむずかかって看護婦たちを困らせている。将来の夢はキャビンアテンダントだが、高い所が怖い。

ことら まこと
琴浦 誠

霧坂総合病院第三小児科医局長。大法典 所属の魔法使い。姿は30代中盤。優秀だがやや尊大な男。

先日、禁書 ソロモン・グランディの永遠の一週間 の回収任務に失敗してしまった。

みなぎ
水城 アユミ

長期入院患者。穏やかで優しい少女。11歳。歩くことができず寝たきりで、苦しい治療に健気に耐えている。将来の夢はバレリーナ。

ふたみや
双宮 ヒトシ

9歳の少年。見舞い客。生意気で口が悪いがお節介で親切。入院している双子の弟ニキを探している。

ふたみや
双宮 ニキ

この病院に入院しているらしい少年。双宮ヒトシの双子の弟。病室を出てほっつき歩く癖がある。この段階では、このキャラクターはシーンに登場することができない。

「秘密」用

以前この病院で亡くなっている。その怨念が禁書の力と琴浦の実験の影響で形を取り始めている。未だ希薄な存在であり、通常の方法ではシーンに登場できない。禁書の【編纂】の儀式時、つまり断章 がまとまる際に姿を現すだろう。この【秘密】が明かされていない場合、禁書 は自由にプロットを行うことができる。

理想郷の書籍卿 魔法名“象牙の塔”。大法典に潜入し、回収に失敗したふりをして禁書 ソロモン・グランディの永遠の一週間 を持ち去った。禁書の断章を憑依させることで患者を不死にする実験を行っている。魔法戦で敗れていない限り、【編纂】の時には現れて妨害をしてくるだろう。

断章持ちの「秘密」用

断章 一週間 に憑依されている。そのことで魔法的な感覚が鋭くなっているらしく、「ユーレイがいる」「せんせいの近くを歩いてた」等と言って怯えている。

マモリ用

断章 ソロモン・グランディ に憑依されている。琴浦に誘われてここに来た。現在は憑依が進み、誘われたことを忘れて、自分からここへ来たのだと思いつている。

ヒトシ用

琴浦に淡い恋心を抱き、心から信頼している。生まれつきの病気で余命半年。治療と称して琴浦の手で断章 永遠)を憑依させられている。

アユミ用

断章

断章 一週間
初期憑依深度：0
攻：2 防：4 魔力：6
魔法：【変異】
特技：《混沌》

断章
ソロモン・グランディ
初期憑依深度：2
攻：3 防：3 魔力：6
魔法：【逆転】
特技：《物語》

断章 永遠
初期憑依深度：1
攻：4 防：2 魔力：6
魔法：【支配】
特技：《裏切り》

このページは
ハンドアウト(貼り付け用)
です。

B5サイズの用紙に印刷し、
枠線をちょうど切り落とすように
切り取って頂くと、
公式サイト配布のハンドアウトシート(B5で印刷)に
ぴったり貼れると思います。